

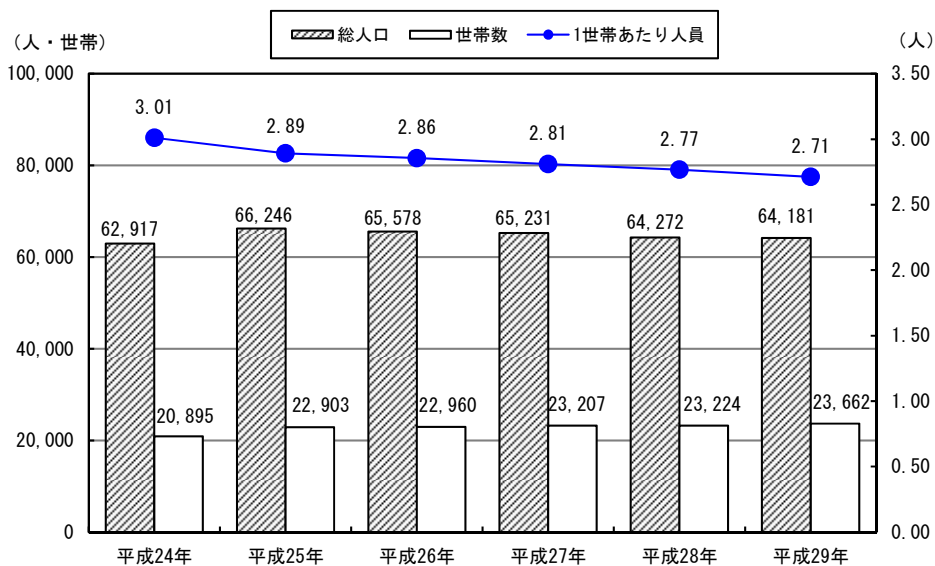
第2章 常総市民の健康状況

第1節 人口などの推移

(1) 総人口及び世帯当たりの人口の推移

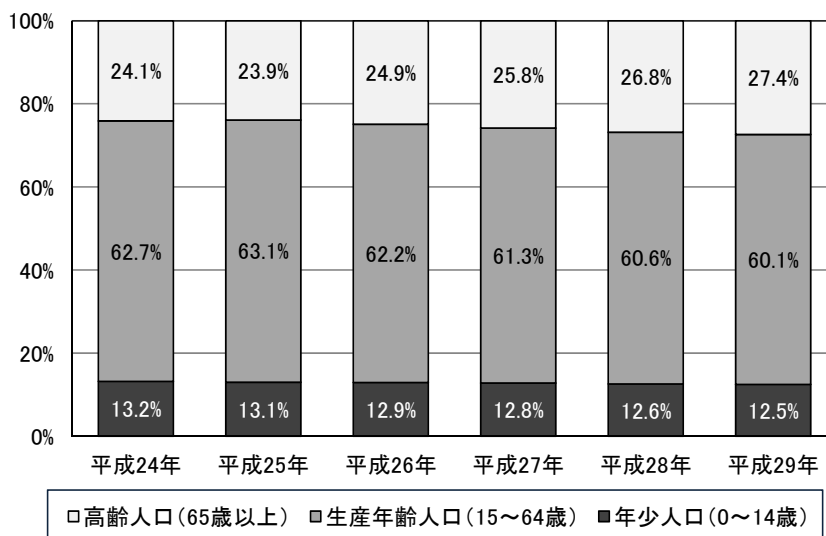
本市の総人口は平成26年以降、若干の減少傾向にあり、平成29年4月では64,181人となっています。一方、世帯数は微増していましたが、平成29年4月では23,662世帯となっています。また、1世帯あたり人員については、毎年若干減少傾向となっています。人口構成を見ると、生産年齢人口が減少傾向、高齢者人口は増加傾向となっています。

総人口、世帯数の推移



【出典：住民基本台帳 各年4月1日現在】

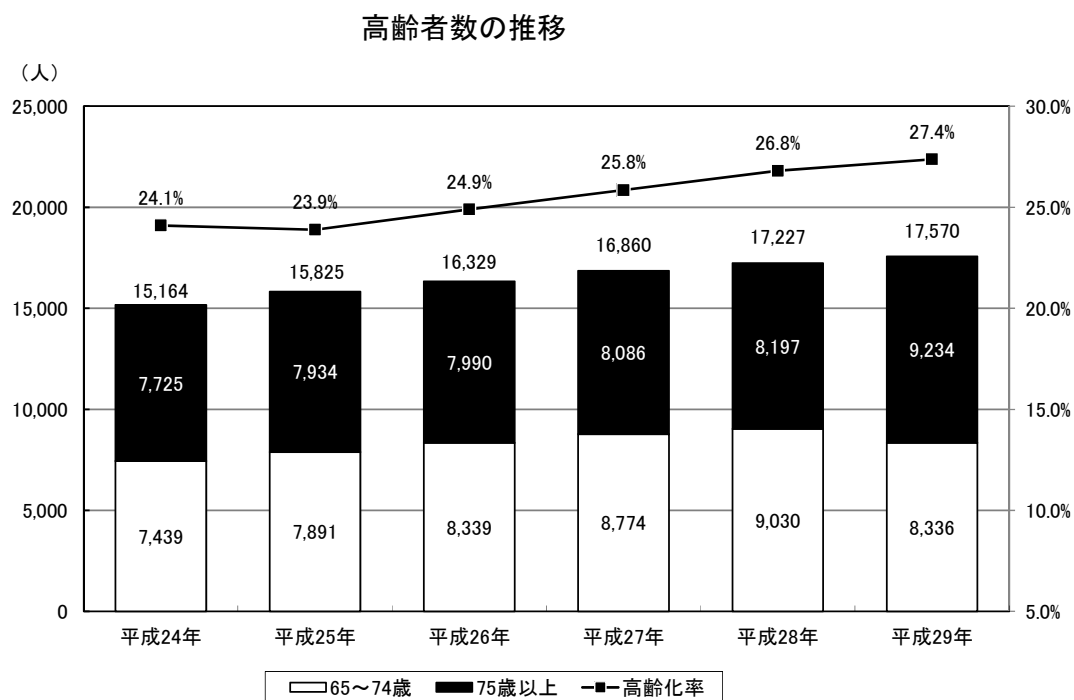
人口構成（年齢3区分）



【出典：住民基本台帳 各年4月1日現在】

(2) 高齢者数

平成29年の高齢者数は17,570人と増加傾向にあり、高齢化率は27.4%となっています。平成24年に比べ、高齢者数は2,406人、高齢化率は3.3ポイントの増加となっており、今後も高齢者数の増加が見込まれます。



【出典：住民基本台帳 各年4月1日現在】

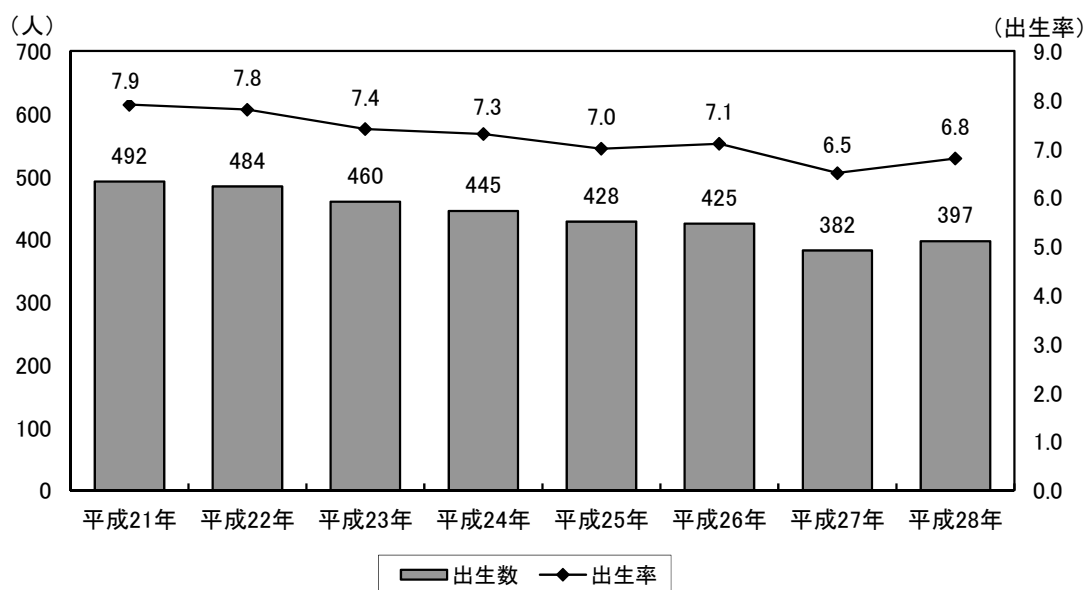
第2節 出生の状況

(1) 出生数の推移

出生数は、年々減少しており、平成27年までは減少傾向になりましたが、平成28年においては、平成27年よりも出生数が若干増加し397人となっています。

また、出生率（人口千対^{*}）も同様の傾向となっており、平成28年は、6.8となっています。

出生数・出生率の推移



【出典：茨城県 人口動態総覧】

※各年1月1日～12月31日までに届け出をした日本人のみ

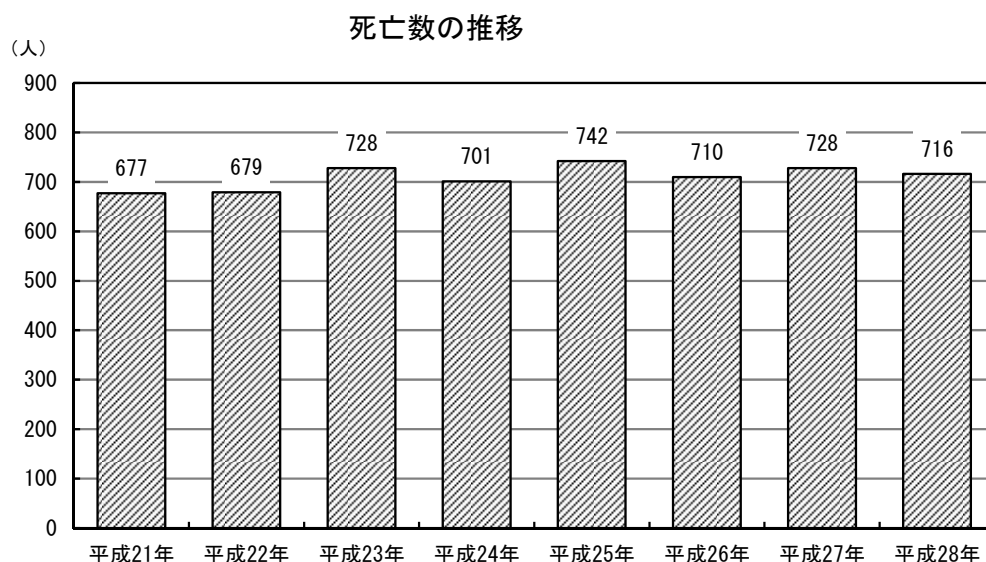
※人口千対：人口1,000人当りにおける出生数

第3節 死亡の状況

(1) 死亡数の推移

死亡数については、毎年700人前後で推移しており、平成28年は、716人となっています。

また、死亡率では、国、県に比べ常総市の死亡率は高くなっています。

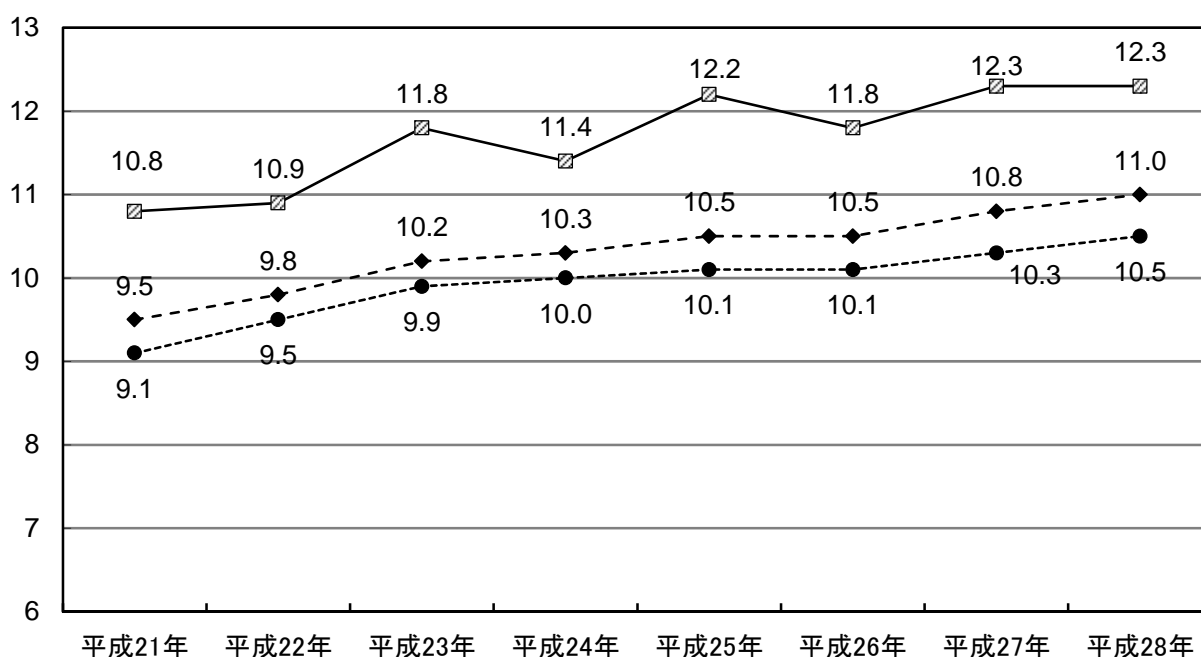


【出典：茨城県人口動態統計】

※各年1月1日～12月31日までに届け出をした日本人のみ

(人口千対)

死亡率の推移（常総市，茨城県，国）



【出典：茨城県人口動態統計】

—□— 常総市 -◆- 茨城県 ---●--- 全国

(2) 死因別死亡者数の推移

死因別死亡者数は、悪性新生物が最も多く、全体の27.1%（平成27年）を占めています。次いで心疾患、肺炎、老衰となっています。

■死因別死亡者数の推移

(人)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
結核	0	0	0	3	2	2	0
悪性新生物	180	166	210	185	194	200	197
糖尿病	3	11	4	5	3	6	6
高血圧性疾患	4	4	8	8	8	8	2
心疾患（高血圧性を除く）	116	108	126	121	87	90	119
脳血管疾患	76	76	74	72	82	76	60
大動脈瘤及び解離	8	6	7	5	8	13	5
肺炎	73	69	83	75	73	70	70
慢性閉塞性肺疾患	5	7	7	18	12	15	9
喘息	1	1	2	2	1	1	1
肝疾患	16	10	12	9	7	8	9
腎不全	23	18	17	14	20	10	16
老衰	28	39	55	48	73	60	61
不慮の事故	26	27	24	22	23	22	19
自殺	16	15	10	11	15	12	11
不詳	102	122	89	103	134	117	143
合計	677	679	728	701	742	710	728

【出典：茨城県保健福祉統計年報】

また、平成27年における悪性新生物での死亡者数は、気管、気管支及び肺が最も多く、次いで、胃、結腸となっています。

■悪性新生物での死亡者数

(人)

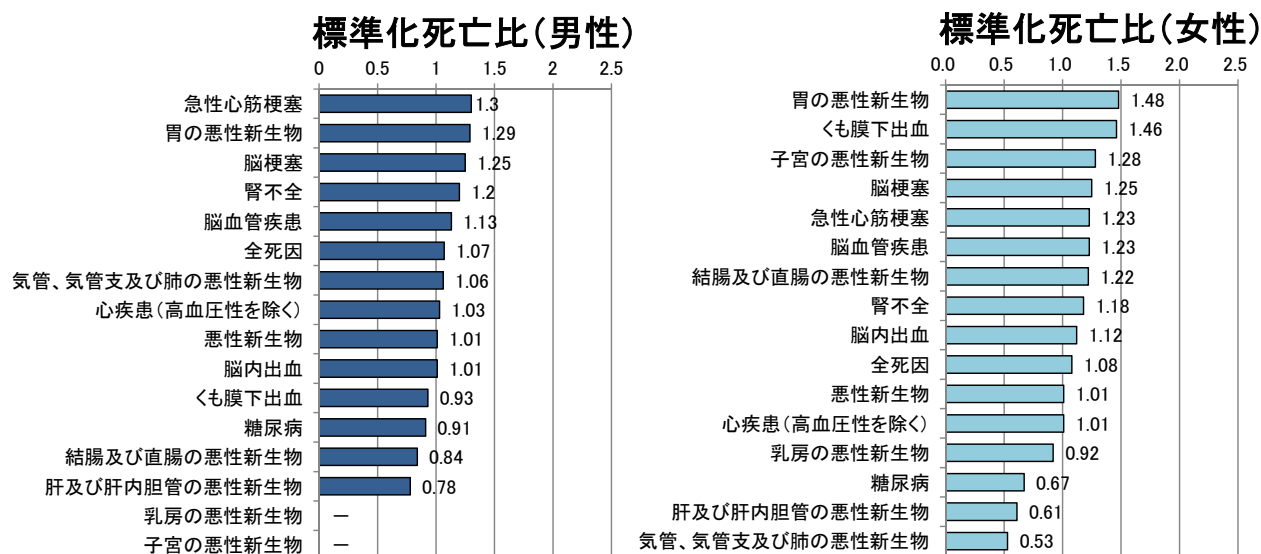
	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
食道	5	6	6	2	4	8	9
胃	38	39	38	25	35	38	28
結腸	18	15	15	13	19	19	20
直腸S状結腸移行部及び直腸	6	9	13	9	5	7	12
肝及び肝内胆管	13	11	17	14	11	6	9
胆のう及びその他の胆道	12	13	17	6	15	15	12
膵	14	11	15	14	17	4	14
気管、気管支及び肺	37	20	29	43	42	37	37
乳房	3	6	5	9	3	6	5
子宮	2	2	4	4	2	8	3
白血病	6	3	5	1	3	4	2
他	26	31	46	45	38	48	46
合計	180	166	210	185	194	200	197

【出典：茨城県保健福祉統計年報】

第4節 標準化死亡比

(3) 標準化死亡比※（SMR）

全国を1.0とした男性の標準化死亡比では、急性心筋梗塞が最も高く、全国の1.3倍となっています。女性では、胃の悪性新生物が全国の1.48倍となっています。男女ともに、全国に比べ、くも膜下出血、脳梗塞、子宮の悪性新生物などでの死亡比が高くなっています。



【出典：平成29年茨城県市町村別健康指標】

※標準化死亡比：ある集団の死亡率を年齢構成比の異なる集団と比較するための指標で、集団について、実際の死亡数と予測される死亡の比をいう。（集団の年齢階層別の死亡率とその階層の人口をかけ合わせたものの総計）

第5節 受療の状況

疾病項目毎に医療費総計，レセプト件数，患者数を算出した結果，「循環器系の疾患」が医療費総計 16.2%を占め最も多くなっています。次いで，「新生物」の 13.8%「内分泌，栄養及び代謝疾患」の 9.9%と多くなっています。また，一人当たりの医療費では，「精神及び行動の障害」が最も多く，次いで「新生物」，「周産期に発生した病態」となっています。
※各項目毎に上位 5 疾病を網掛けしています。

疾病項目（大分類）	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円)	構成比 (%)	順位	レセプト 件数(延)	順位	患者数 (延べ人数)	順位	患者一人あた りの医療費 (円)	順位
感染症及び寄生虫症	200,092,309	3.8%	10	21,160	10	5,486	8	36,473	15
新生物<腫瘍>	724,985,422	13.8%	2	19,214	13	4,819	10	150,443	2
血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	109,794,477	2.1%	14	7,427	16	1,945	15	56,450	10
内分泌，栄養及び代謝 疾患	522,429,540	9.9%	3	79,872	2	8,134	3	64,228	8
精神及び行動の障害	479,995,367	9.1%	4	24,013	8	2,295	14	209,148	1
神経系の疾患	212,832,142	4.0%	9	38,570	6	3,761	12	56,589	9
眼及び付属器の疾患	174,799,331	3.3%	11	20,506	11	5,500	7	31,782	16
耳及び乳様突起の疾患	25,155,547	0.5%	16	7,532	15	1,836	16	13,701	19
循環器系の疾患	852,175,897	16.2%	1	90,082	1	7,679	4	110,975	5
呼吸器系の疾患	365,509,619	6.9%	7	56,634	5	10,000	1	36,551	14
消化器系の疾患	401,982,101	7.6%	6	69,414	3	8,761	2	45,883	12
皮膚及び皮下組織の疾患	118,715,932	2.3%	13	26,312	7	5,508	6	21,553	17
筋骨格系及び結合組織 の疾患	466,082,843	8.9%	5	56,794	4	7,018	5	66,412	7
腎尿路生殖器系の疾患	305,000,957	5.8%	8	20,366	12	4,238	11	71,968	6
妊娠，分娩及び産じょく	21,253,591	0.4%	17	494	20	182	20	116,778	4
周産期に発生した病態	10,296,412	0.2%	19	136	21	71	21	145,020	3
先天奇形，変形及び染 色体異常	13,406,328	0.3%	18	948	18	296	18	45,292	13
他に分類されないもの	83,692,965	1.6%	15	22,592	9	5,341	9	15,670	18
損傷，中毒及びその他 の外因の影響	166,333,424	3.2%	12	10,458	14	3,232	13	51,465	11
症状，徴候及び異常臨床所 見・以上検査所見で他に分 類されないもの	8,762,814	0.2%	20	5,078	17	832	17	10,532	21
分類外	2,314,942	0.0%	21	763	19	208	19	11,130	20
合計	5,265,611,960	-	-	240,615	-	17,153	-	306,979-	-

※出典：常総市国民健康保険第 2 期データヘルス計画（平成 30 年 3 月）

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)，入院外，調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月診療分(12 カ月分)。

資格確認日…各月，1 日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため，データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト，月遅れなど)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため，合計件数は他統計と一致しない(1 件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため，合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠，分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形などの傷病名が含まれるため，“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO 因子不適合などの傷病名が含まれるため，周産期(妊娠 22 週から出生後 7 日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

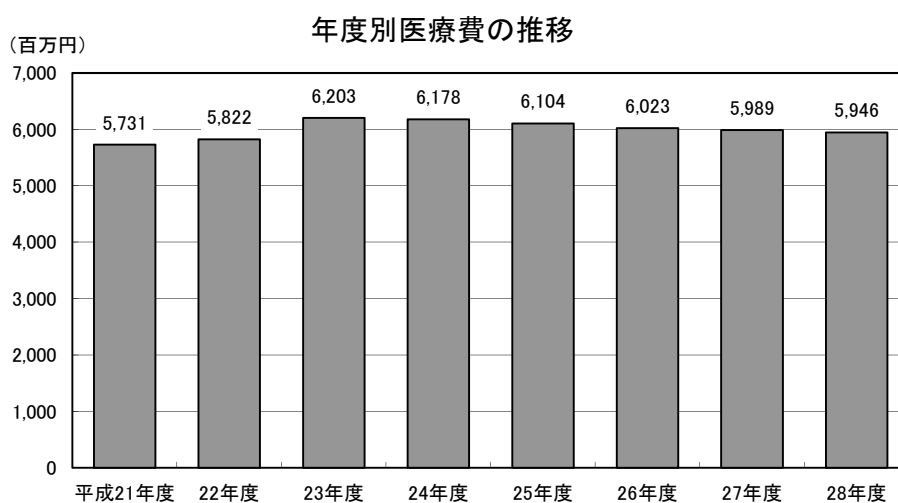
第6節 医療費・介護給付費の状況

(1) 医療費の状況

【年度別医療費の推移】

本市の医療費は平成23年度までは増加傾向にありましたが、近年では減少し平成28年度では、約59億46百万円と前年よりも少なくなっています。しかし、平成21年度に比べ約2億15百万円の増加となっています。

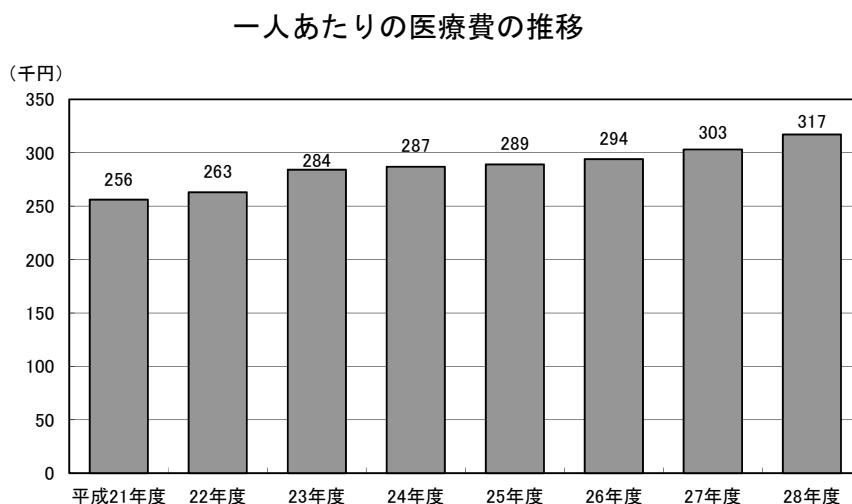
本市においても少子高齢化の傾向が表れ、高齢者の増加が見込まれる中で、今後も医療費が増加していくものと思われます。



【出展：常総市平成28年度版統計書】

【一人あたりの医療費の推移】

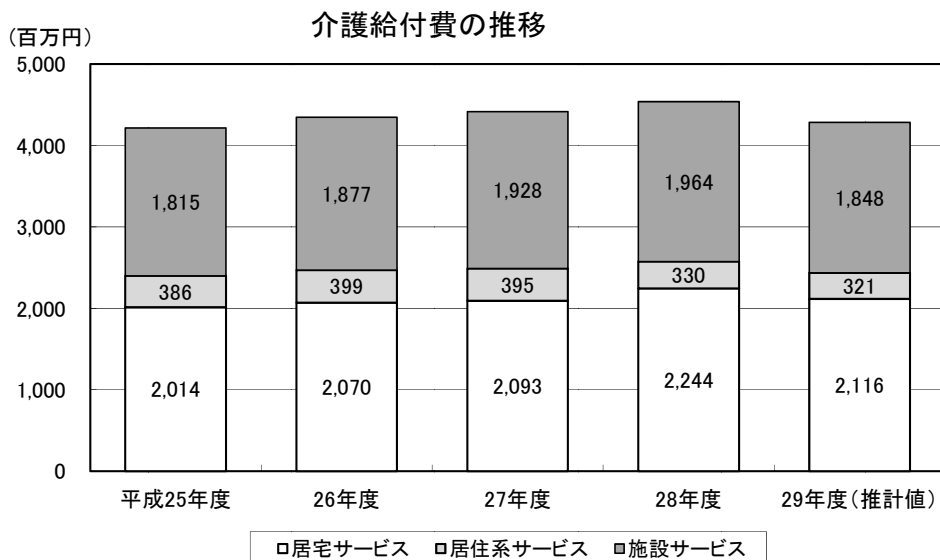
一人あたりの医療費は年々増加傾向にあり、平成28年度では、約31万7千円となっており、平成21年度に比べ約6万1千円の増加となっています。



【出展：常総市平成28年度版統計書】

(2) 介護給付費の推移

介護保険事業における居宅サービスと施設サービス給付費は年々増加しています。平成29年度の居宅サービス、居住系サービス、施設サービスの見込み値は、平成25年度に比べ約7千万円増加しています。今後の高齢者の増加に伴い、要介護認定者も増加が見込まれ、給付費も増加していくものと考えられます。

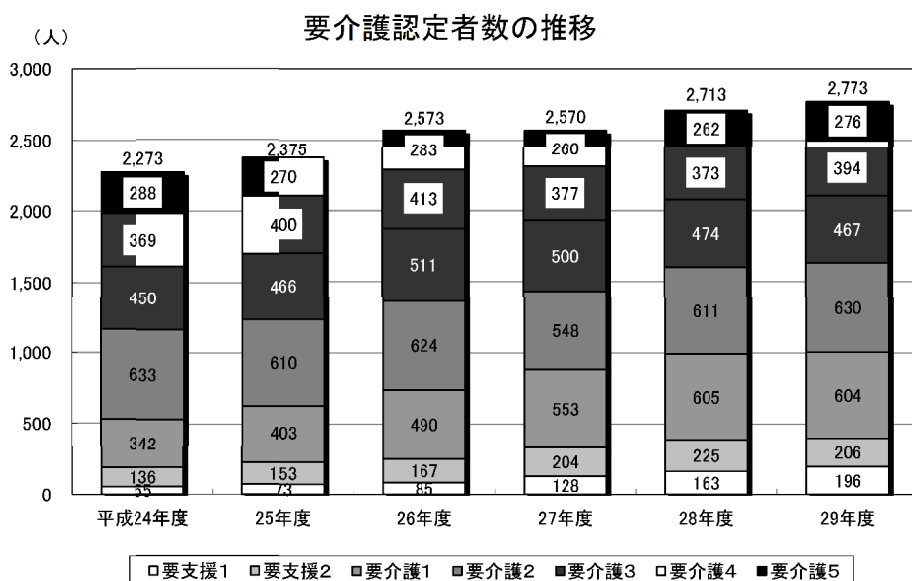


【出典：地域包括ケア見える化システム】平成30年1月17日取得

(3) 健康指数

ア. 要介護認定者

要介護認定者の状況は、年々増加傾向にあり、平成29年には、2,773人となっています。平成24年と比較すると、500人の増加となっています。



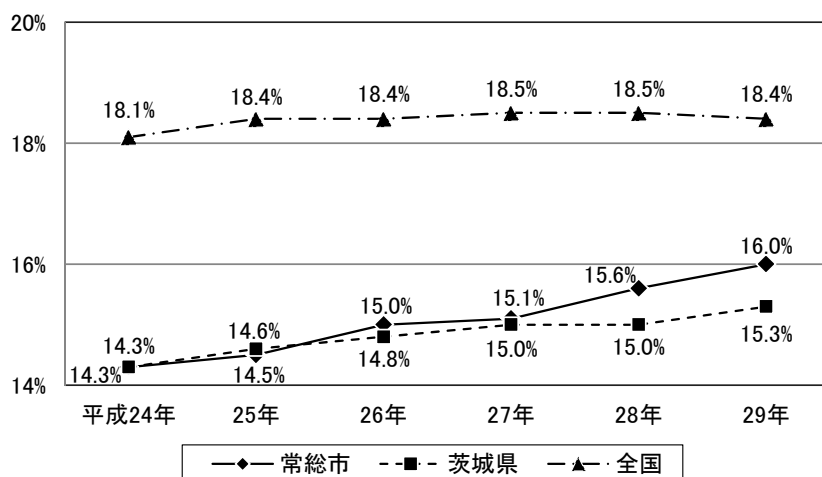
【出典：地域包括ケア見える化システム】平成30年1月17日取得

イ. 要介護認定率

本市の要介護認定率はゆるやかに上昇傾向となっています。平成29年では16.0%となっており、平成24年に比べ1.7ポイント上昇しています。

また、県、国と比較すると本市の認定率は、国よりも低く、県とほぼ同様の数値となっており、平成29年では、県平均より0.7ポイント高く、国平均より2.4ポイント低くなっています。

認定率の推移（常総市，茨城県，国）



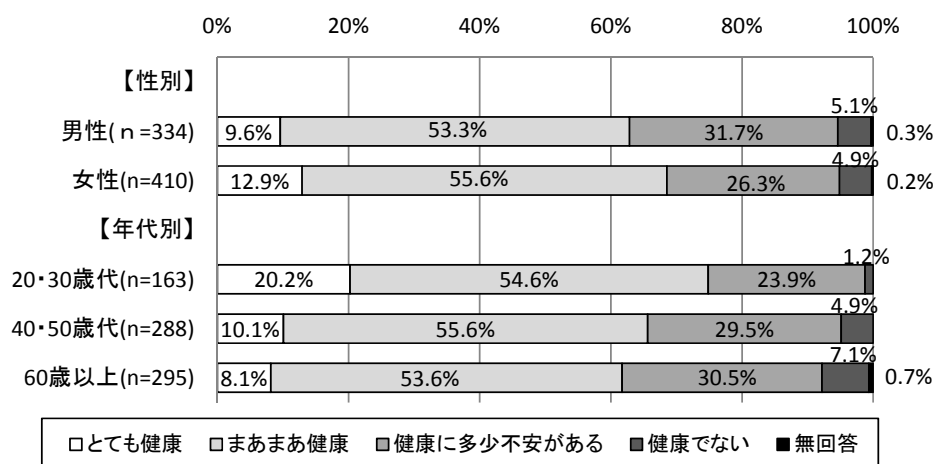
【出典：地域包括ケア見える化システム】

(4) 健康感

ア. 主観的健康感

各年代で主観的な健康感を聞いたところ、20・30歳代は20%以上が「とても健康」と回答しているのに対し、40・50歳代では、10.1%になっています。また、60歳以上では、8.1%となり、年齢が上がるに従い、「健康」と回答している割合は少なく、「健康に多少不安がある」、「健康ではない」という回答割合が多くなっています。

ライフステージ別主観的健康感



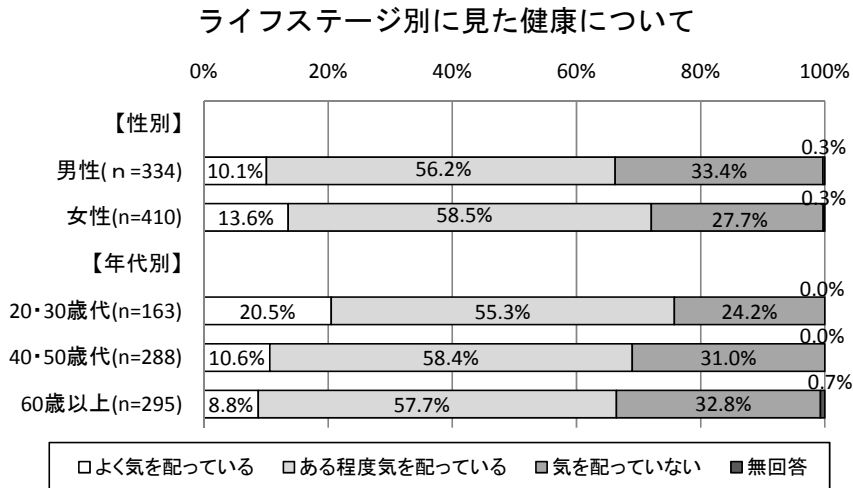
※nは回答人数を表します。

【出典：常総市健康意識調査】

イ. 健康について

成人の方に聞いた、「自分の健康に気を配っているか」という設問では、年齢が上がるに従い、「気を配っている」という回答が少なくなり、60歳以上では、8.8%となっています。

また、男女別では、男性の「気を配っていない」という回答が33.4%と多くなっています。

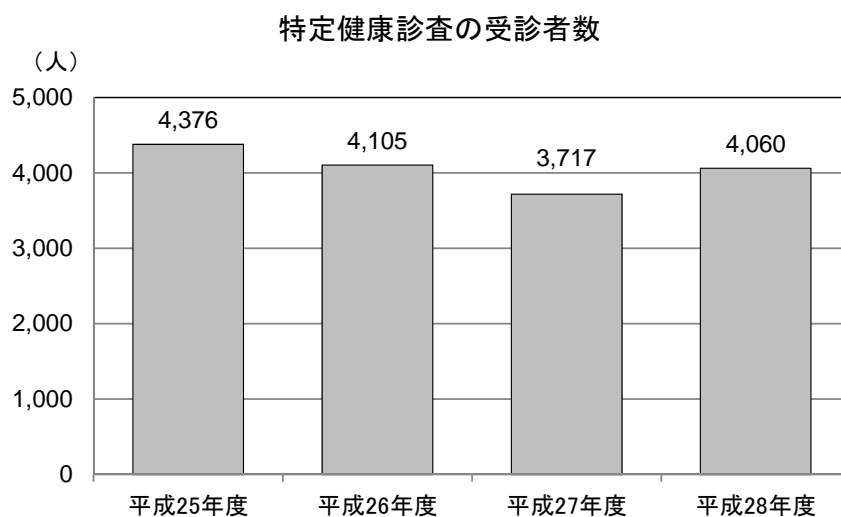


【出典：常総市健康意識調査】

第7節 疾病予防の状況

(1) 特定健康診査・特定保健指導

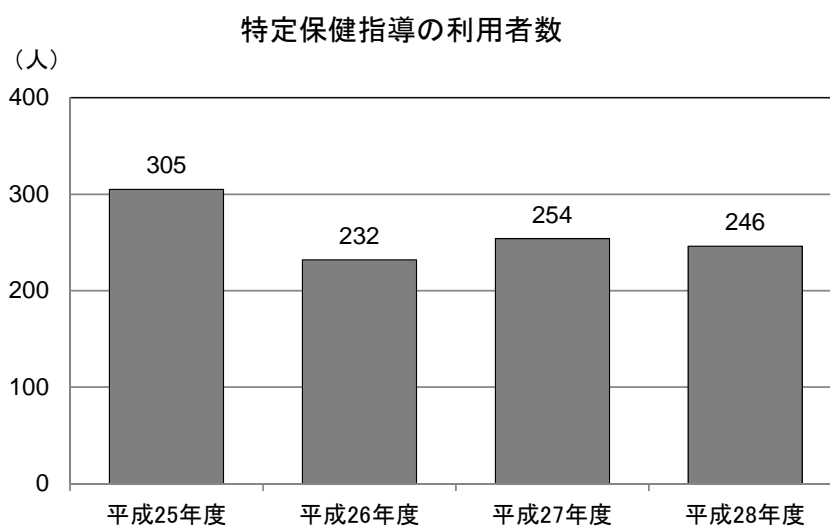
特定健康診査受診者数は減少傾向にあり、平成28年度では平成25年度に比べ、316人減少し、4,060人となっています。



【出典：常総市平成28年度版統計書】

【特定保健指導の利用者数】

特定保健指導の利用者数をみると、平成27年度から若干減少しており、平成28年度は246人となっています。



【出典：常総市平成28年度版統計書】

(2) がん検診

【大腸がん検診要精密検査受診者の推移】

本市が実施している大腸がん検診において、「要精密検査」と診断され、精密検査を受けた方のうち、がん確定者は、平成 27 年度で 5 人となっています。

■大腸がん検診の受診者数及び再検査など受診者数、がん発見者数の推移・内訳 (人)

年度	検診受診者 (受診率)	要精密判定者 (判定率)		
		精密検査受診数		
		がん確定者		
平成 24 年度	3,151 (13.2)	239 (7.6)	186	11
平成 25 年度	3,400 (17.7)	276 (8.1)	224	10
平成 26 年度	3,188 (16.6)	244 (7.7)	193	8
平成 27 年度	3,278 (17.3)	245 (7.5)	192	5

【出典：茨城県市町村のがん検診実施状況】

【胃がん検診要精密検査受診者の推移】

本市が実施している胃がん検診において、「要精密検査」と診断され、精密検査を受けた方のうち、がん確定者は、平成 27 年度で 1 人となっています。

■胃がん検診の受診者数及び再検査など受診者数、がん発見者数の推移・内訳 (人)

年度	検診受診者 (受診率)	要精密判定者 (判定率)		
		精密検査受診数		
		がん確定者		
平成 24 年度	1,971 (8.3)	194 (9.8)	158	4
平成 25 年度	1,877 (9.8)	178 (9.5)	157	1
平成 26 年度	1,661 (8.7)	139 (8.4)	125	1
平成 27 年度	1,661 (8.8)	117 (7.0)	104	1

【出典：茨城県市町村のがん検診実施状況】

【肺がん検診要精密検査受診者の推移】

本市が実施している肺がん検診において、「要精密検査」と診断され、精密検査を受けた方のうち、がん確定者は、平成 27 年度で 1 人となっています。

■肺がん検診の受診者数及び再検査など受診者数、がん発見者数の推移・内訳 (人)

年度	検診受診者 (受診率)	要精密判定者 (判定率)		
		要精密判定者 (判定率)	精密検査受診数	
			精密検査受診数	がん確定者
平成 24 年度	5, 107 (22.0)	151 (3.0)	129	6
平成 25 年度	5, 159 (26.9)	164 (3.2)	156	6
平成 26 年度	4, 351 (22.7)	121 (2.8)	113	3
平成 27 年度	3, 961 (20.9)	96 (2.4)	90	1

【出典：茨城県市町村のがん検診実施状況】

【乳がん検診要精密検査受診者の推移】

本市が実施している乳がん検診において、「要精密検査」と診断され、精密検査を受けた方のうち、がん確定者は、平成 27 年度で 7 人となっています。

■乳がん検診の受診者数及び再検査など受診者数、がん発見者数の推移・内訳 (人)

年度	検診受診者 (受診率)	要精密判定者 (判定率)		
		要精密判定者 (判定率)	精密検査受診数	
			精密検査受診数	がん確定者
平成 24 年度	1, 960 (12.6)	101 (5.2)	84	3
平成 25 年度	2, 076 (15.8)	115 (5.5)	92	2
平成 26 年度	2, 182 (16.6)	121 (5.5)	96	6
平成 27 年度	2, 190 (17.7)	77 (3.5)	69	7

【出典：茨城県市町村のがん検診実施状況】

【子宮がん検診（頸部・体部）要精密検査受診者の推移】

本市が実施している子宮がん検診（頸部・体部）において、「要精密検査」と診断され、精密検査を受けた方のうち、がん確定者は、平成 27 年度で 1 人となっています。

■子宮がん検診（頸部・体部）の受診者数及び再検査など受診者数，がん発見者数の推移・内訳（人）

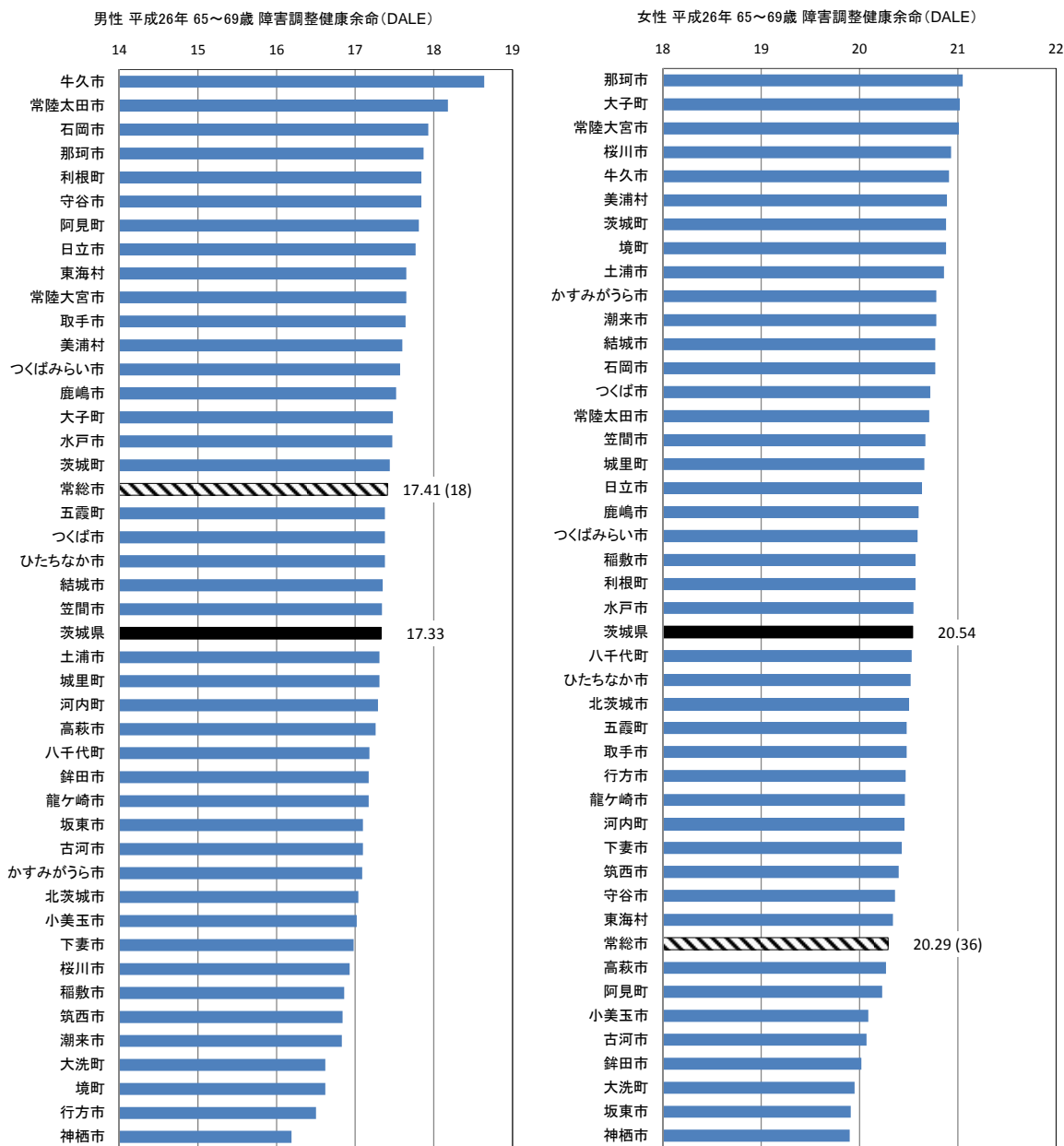
年度	検診受診者（受診率）	要精密判定者（判定率）		
			精密検査受診数	
				がん確定者
平成 24 年度	1,888(15.5)	39 (2.1)	36	1
平成 25 年度	1,922(13.5)	42 (2.2)	39	0
平成 26 年度	2,091(14.7)	49 (2.3)	40	0
平成 27 年度	1,928(14.5)	35 (1.8)	32	1

【出典：茨城県市町村のがん検診実施状況】

(3) 障害調整健康余命 (DALE)

「47 都道府県と茨城県 44 市町村の健康寿命 (余命) に関する調査研究報告書」(平成 28 年 3 月, 茨城県立健康プラザ) によると, 男女の 65~69 歳障害調整健康余命^{*}は, 男性は県平均より高くなっており, 女性は低くなっています。

平成 26 年の県内順位では, 男性は県内 18 位, 女性は県内 36 位となっています。



【出典：47 都道府県と茨城県 44 市町村の健康寿命 (余命) に関する調査研究報告書】

※健康度の高い順, () 内は県順位

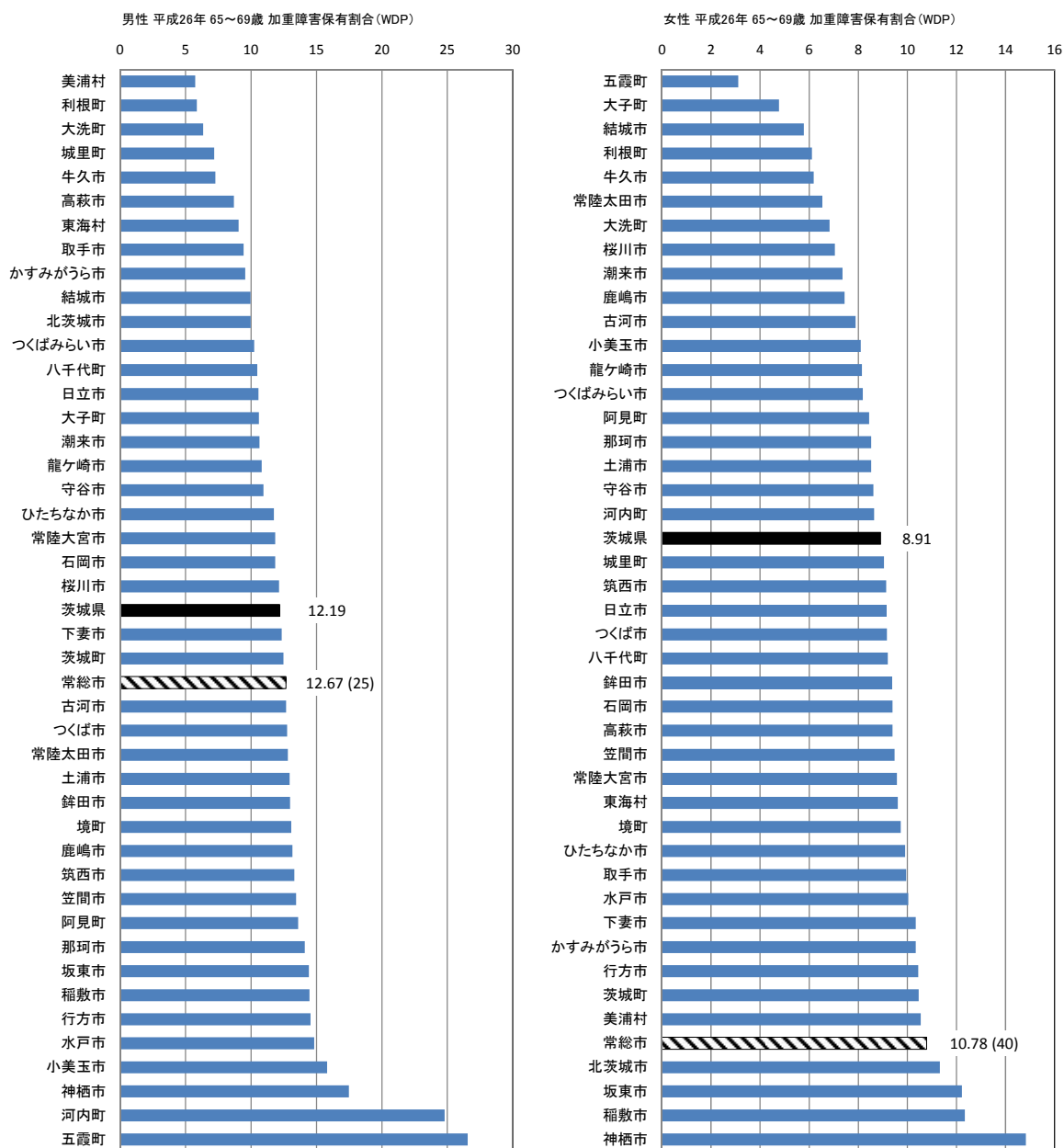
※数値が高いほど健康に過ごせる年数が長い。

※障害調整健康余命 (DALE) : 障害がなく自立して健康に過ごせる年数。

(4) 年齢調整加重障害保有割合 (WDP)

「47 都道府県と茨城県 44 市町村の健康寿命 (余命) に関する調査研究報告書」(平成 28 年 3 月, 茨城県立健康プラザ) によると, 男女の 65~69 歳年齢調整加重障害保有割合^{*}は, 男性は県内で中位を位置し, 女性は下位となっており, 障がいを持つ割合が高くなっています。

特に, 平成 26 年では, 男性は県内 25 位, 女性は県内 40 位となっています。



【出典：茨城県健康寿命 (余命) に関する調査研究報告書】

※健康度の高い順, () 内は県順位

※数値が低いほど障がいを持つ割合が低い。

※加重障害保有割合 (WDP) : 65 歳以上の介護認定を受ける障がいがある人の割合